

2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取り組み

評価項目	具体的な取組状況
Ⅲ 保育の在り方・ 幼児への対応	<p>『保育を深めるための連携』</p> <p>改善策</p> <p>a チェック表のような用紙を作り、各クラスの週案をはさむ。他クラスの子どもの様子で担任らに伝えたいと思う内容を誰でも記入できるようにした。(自分のクラス以外の子の様子を発信し、共有する)</p> <p>(保護者への伝達や記録がスムーズになり、保育準備の確保につながる)</p> <p>b チェック表の下の部分を記入して活用する。担任は歯磨きの時間、担任は降園後に日中の様子を記入した。(日々の様子とぬくもり保育が繋がっていることを保育者は意識して保育できる)</p>
Ⅶ 保育の在り方・ 3歳未満児への対応	<p>『保育者の連携～担任・副担任(パート)職員が共通理解しなければならない事項』</p> <p>改善策</p> <p>a 担任→副担任→副担任(パート職員)と情報が相互に回るようにする</p> <p>b 午睡時子どもが寝付いたら10分程度情報共有をする</p> <p>c 週案の活用…3歳以上児の週案の様に「担任から副担任へ」「副担任から担任へ」の欄を作成する</p> <p>特にcについては週案の形式を変更したことにより、日々クラスに関わる職員が記録することができ、個々のみとりやクラス運営に役立った。また、連絡事項を書面で確認でき連携に役立った。</p>

① 1回目の自己点検・自己評価、グループディスカッションを通して

第1回目自己点検・自己評価は、大項目Ⅲ「保育者としての資質や能力・良識・適正」、大項目Ⅵ「保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」を実施した。

「指導的立場」では、繰り返し指導が必要な場合、どのような支援を行えばよいかということが課題に上がった。また、今年度から新しく取り入れた「同僚や関係者に対するねぎらいの気持ちを持っている」「園舎の構造や保育室がどのような教育的意味を持っているのか理解し、保育にいかしている」という項目を課題とあげている職員が多かった。4月に病院受診をするけがが続いたこともあり、こどもたちの危機管理の項目と関連づけ、グループディスカッションを行った。

☆園長・主任グループ

繰り返し支援が必要な保育者に対し、どのように支援していくか？

園長が作成したキャリアパスを素に、鎌倉女子大学・佐藤康富教授よりアドバイスいただいたことを参考にスモールステップの目標を作成した。

<表の活用方法>

- ・園長、担当主任、本人で面談

(6月→新採用者にキャリアパスを行う)

(9月→主任以外にスモールステップを行う)

(12月→職員全員にキャリアパスを行う)

- ・現在、自分がどの段階にいるのかを確認する

・次のステップ(目標)がどこなのかということを共通理解し、目標が達成できるよう園長、主任を中心に支援を行った。

☆グループA

周りへの感謝の気持ち、ねぎらいの気持ちを伝えることについて

自分が言われたら嬉しい感謝の気持ち、ねぎらいの気持ちとはどんな場面？についてフセンに書きあげ、様々な事例を書きだし、子ども・職員・保護者にカテゴリ分類した縦軸と気づき・実践・認めにカテゴリ分類した横軸とした表をもとに書き上げた物を整理した。整理した後、さらにカテゴリに分類した事例一つひ

とつについて、感謝された時・ねぎらわれた時の喜びが何のカテゴリに繋がっているかということについて考え、矢印で結んでいった。このような作業をする中で、矢印がいろんなところに複雑にからんでいるのが分かった。これらの話し合いから気づいたこととして、“一つ褒められた事からいろんな面に繋がっていることが分かり、ありがとうと言ったことで良いことがたくさんある。”“保育という仕事が良い仕事と感じられた。ありがとうをたくさん言い合える素敵なお仕事。あらためて子ども、保護者を認めたりみとっていききたい。”“職員一人だけでは頑張れない。様々な人に支えられ頑張れることに気付けた”などがあげられた。そこから人間性・社会性を身につけるために自分たちは何ができるかを考え、実践したいことを考えた。3つに絞って実践できるようにと話し合った結果、

①子どもたちにも〇〇が良かったよ、ありがとうと具体的に伝えるようにしたい。

②感謝の言葉と同じようにねぎらいの言葉の大切さを感じたので意識したい。

③保護者の頑張りも認め、伝えていきたい。

という点を取り組んでいくことにした。カテゴリに分けてテーマに沿った内容についていいところ見つけた！という内容であればピンクの付箋で、もっとこうやったらいいんじゃない？という内容であれば黄色の付箋で書き上げるようにした。この取り組みを行うとたくさんの付箋が貼り出され、人に対して感謝やねぎらいの気持ちを持つことを意識化することができた。それにより、クラス運営や職員間の連携がスムーズに行えるようになり、子どもたちも小さなトラブルが減ったり、クラスのまとまりが出たりと子どもたちの変化も見ることができた。「同僚や関係者に対するねぎらいの気持ちを持っている」という項目について職員一人ひとりの考え方を統一することができたため、2回目の自己点検・自己評価からも評価が上がったことが見られた。

☆グループ B

こどもの危機管理と園舎の構造との関係性について

園内、園庭でどのような事故が起こりやすいかを分析したところ、「こどもたちが経験をすることで意識し防げる危険」と「保育者が手を加え、防がなければいけない危険」があることがわかった。前者の危険については、その危険をあらかじめ経験させたり、その危険に気づいた時にその都度場面ごとに教えていくことで子どもの危険予知能力が高まることも期待できることを確認し合った。

また、園内や園庭をどんなふうを活用しているかを全職員で出し合った結果、すでに活用されている例がたくさんあった。これから取り入れたい遊びのアイディアも多く出た為、その中で一番身近な園庭をどのように活用していくのか、すでにある自然をどう活かしていくのかについて注目した。10月に日本自然保護協会認定 自然観察指導員 青木きみ子氏を招き研修を行い、その点について学ぶ機会を設けた。その後、新しいアイディアで職員から多くの意見が出た山砂、川砂を取り入れ泥遊びが出来るように環境を整えた。H29年度は近所の田んぼをお借り出来たので田植え等の経験が出来るようにしていく。また、職員も学んだことを保育に取り入れていく。

2回目の自己点検・自己評価、グループディスカッションを通して

1回に続き、2回目の自己点検でも大項目Ⅲ「保育者としての資質や能力・良識・適正」、大項目Ⅵ「保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」を実施した。1回めで課題とあがった「同僚や関係者に対する感謝やねぎらいの気持ちを伝えている」については改善策の取り組みにより評価が上がった。また「他保育者の自己課題を把握している」という項目についてはキャリアパス・スモールステップの導入により指導的立場の評価があがった。その中で「保護者や同僚に対し、伝達事項をうまく伝えられない」という課題が出てきた。そのため、「保護者につたえなければ伝達事項について」3歳以上児、3歳未満児で分かれグループディスカッションを行うことにした。

☆3歳未満児

保護者への伝達事項についての共通理解

・保護者に伝えるべき内容はなにか？を話し合い、時系列で分けながら、保護者に伝えるべき内容を共通理解した。



・各内容についてどのような手段（直接話す/電話で話す/個人ノート/面談/おたより/掲示物など）で、誰（クラス職員/担任/副担任/ぬくもり担当/主任/園長）が伝えるとよいか？

ということを話し合い共通理解した。

☆3歳以上児

保護者への伝達事項についての共通理解

・保護者への伝達事項についてしっかりと伝わった事を付箋に書き出し、カテゴリ別に分類した。また、同様にうまくいかなかった例も行い、カテゴリ別に分類した。2つの例を比較してみると、しっかりと伝わった例には、保護者と保育者の信頼関係が築けていることに改めて気が付いた。話し合いの中で他クラスの職員の事例を聞いたことで悩みや喜びを共感し、共有する場ともなった。保護者への伝達事項をしっかりと伝えるために必要なことは、子どもの良い所・成長した所を保護者に日々繰り返し伝えていくことが大切だということを確認した。グループディスカッションの前に行われた東京福祉大学の鈴木美子先生の講演ともつながり、「思いやりや優しい言葉がけで心の扉は開かれる→心の扉を開くことで良い連鎖が生まれる」ということを確認した。

【学校関係者評価委員会メンバー】(敬称略)

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

山崎 喜久治	南魚沼市管理指導主事	岡村 秀康	塩沢小学校長
八木 三男治	元小学校長・当学校法人理事	高村 裕樹	当園 PTA 会長
上村 篤嗣	当園 PTA 副会長	岡 篤史	当園 PTA 副会長
事務局	角谷金城幼稚園長	角谷金城保育園長	担当：瀬下教頭 貝瀬主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

評価項目	具体的な取組状況
III「保育者としての資質や能力・良識・適正」	
☆3歳未満児	・保護者に伝えるべき内容、手段、誰が伝えるかについて共通理解をし、表を作成した。来年度へ向けて、この表を基に伝達事項について各職員が理解し保護者に伝えていくようにする。
☆3歳以上児	・保護者への伝達事項をしっかりと伝えるために、子どもの良い所・成長した所を保護者に日々繰り返し伝えていくことが大切であり、引き続き実践していく。また、「思いやりや優しい言葉がけで心の扉は開かれる→心の扉を開くことで良い連鎖が生まれる」ということを意識しながら保護者と連携をはかっていく。

4、学校関係者の評価

・毎回、日々の検証をしっかりとされている。常に一つひとつ気付いた時に振り返って細かく対応すること、まとめて振り返ることのどちらも大切にしている。その積み重ねが成果に繋がっている。継続して行って欲しい。

・今まで行事等の表面的な部分しか見えていなかったが、今回参加させて頂き、その裏側で多くの努力をして下さっていることが見えた。その積み重ねと努力が素晴らしい。子どもは園でたくさんの事を学ぶことができ成長していると感じる。

・親としてここまでやってくれているという安心感があり、ありがたい限りである。

・ちゅうりっぷ組のイス取りゲームでイスに座れずに泣いてしまう子がいた。泣くことが悪いのではなく、悔しい思いをしたり、競い合ったりする中で保育者と関わり乗り越える力を身につけられる機会をあえて作って下さっていることは大切だと感じた。

・「初雪が降った」「虹が出た」など保育が多少止まっても見る機会を作っている」という内容が自己点検内にあったが、とても大切にしてほしいことだと思う。マニュアルにのせきれない、保育者としての感性も大切なのだと感じる。

・“保護者との連携” はとても大切なキーワードである。誰がどうこうしても家庭の役割を担うことはできない。子どもの成長の中で、家庭でなければできない役割を明確にして自覚をしっかりと持

って頂くことを目標として欲しい。

- ・職員の同僚性を大切にしていることが伺える。職員が悩んだ時に一人ぼっちにさせないチームワークがとれた関係性ができている。

- ・小学校でも日々子どもの姿を伝える必要性は感じているが、つい課題を先に伝えがち。もっと良い部分を伝え、信頼関係を築く必要があると思った。

- ・評価の積み重ねが大切。自己点検、自己評価、課題、改善策の流れの取り組みの積み重ねが子どもの姿に表れている。

- ・指導者には『資質・能力・良識・適正』は欠かせない。その中でも特に良識が基本と思う。“やるべきことをやっているか” “やった方が良くと思う事をやっているか” “やらない方が良くと思う事をやっていないか” “やってはいけないことをやっていないか” をどうやって子どもに教えていくかが大切。

- ・約 9 年前から当園に関わりを持たせて頂いている。9 年前の「幼児教育の改善・充実研究事業」は当園単独で受けたため、負担が多く、大変な作業であったと思うがなえてしまうことなく日々精進して取り組む姿に底知れぬパワーを感じたのを覚えている。環境教育、幼保小連携、特別支援、学校評価、第三者評価養成講座など求められることを着実に積み重ねているのがその表れである。

- ・当法人の研修会では 1 年目の先生が自身の研究を発表するのだが、新卒の先生の研究からも学べる事がたくさんあり、自分を振り返りながら気付かせる大切な機会となっており、様々な経験年数の教職員の方が学ぶ機会にもなっている。介護も含めた他施設合同で行っているため、保育と介護、福祉を通して共有して学べることもあり、顔と顔を合わせて同じ場にいることが大切で相乗効果がある。

5、苦情解決結果報告

平成 28 年度は事例が 1 件ありました。

・交通マナーについて

塩沢駅から塩沢商工高等学校へと向かう通学路は時間帯指定で朝 7:30~8:30 が交通規制により通行止めとなっているが、園児らしき子どもを乗せた車が頻繁に通行しており、危険である。園からも保護者へ交通規制について指導してもらいたい。

→保護者に手紙を配布し、指定時間に交通規制の件を表示したコーンとバーを置き、周知徹底を図った。